

会員会社紹介

# 慶應義塾大学 コ・モビリティ社会研究センター

センター長／理工学部教授  
重野 寛



慶應義塾大学先導研究センター（先導研）はさまざまな研究領域を横断的に連結・融合させて、新しい形の研究拠点を形成するために設立された学部・研究科横断的な全塾的組織であり、研究活動の活性化、迅速化を目指しています。この先導研に属しているコ・モビリティ社会研究センターはITC技術及びITS (Intelligent Transport Systems) 技術の活用による新たなモビリティを導入した地域コミュニティの創成を目的として発足しました。発足以来、子供からお年寄りまですべての人が、自由に安全に移動ができ、交流が容易になり、暮らしやすく、創造的・文化的な社会の創造を目指し、最先端の情報・通信・移動体の技術による新しい発想の“移動”のための「コ・モビリティ科学」の研究を続けています。

### 自動運転システムの地域社会への導入

平成20年1月には、コ・モビリティ社会研究センターと宮城県栗原市の間で連携協力協定を締結、翌年には独自に開発した自動運転小型電気自動車コ・モビリティ・ビークルによる研究開発のデモと体験会を実施することができました（科学技術振興調整費「先端融合領域イノベーション創出拠点の形成」事業）。この研

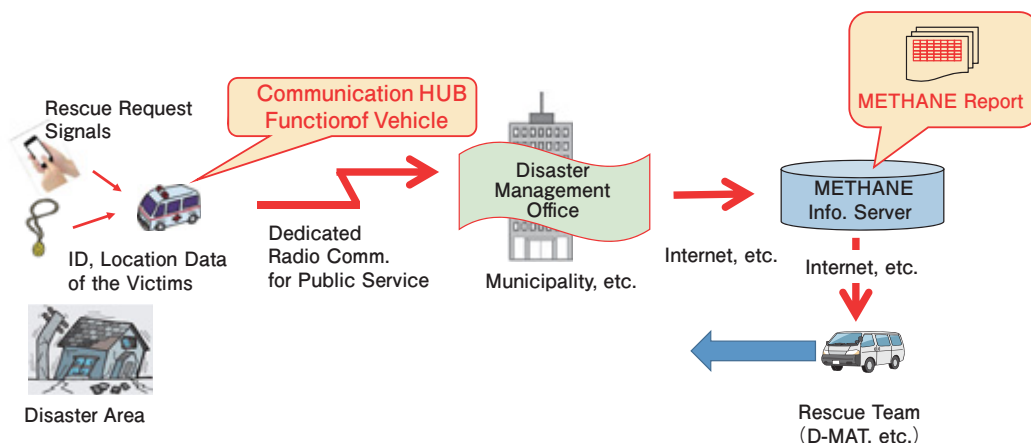
究成果は、近年活発化している国際的な自動運転技術の分野で、地域コミュニティの活性化の断面における一つの方向性を示せたもの思っております。

### 自動車を活用した災害時の情報通信システム

大規模災害への対応に関する研究も推進中です。平成26年度には、大災害急性期救命情報共用システム研究開発プロジェクトを実施しました（総務省先進的通信アプリケーション開発推進事業：SCOPE）。開発したシステムは、大規模災害発生直後72時間以内のサーチ・アンド・レスキュー（捜索救難）を確実に実行するために、自動車の持つ通信VHUB機能を活用するもので、現在TTCが取り組んでいるASTAPへの標準化作業にも参加しています。

### 国際標準化活動

当センターは、従来からITSの国際標準化の活動にも深く関与しており、TTCのスマートコミュニケーションAGの活動を経て、現在のコネクテッド・カー専門委員会の発足に伴って会員として参加することになりました。今後、各種の国内の研究開発に基づく成果を、国際標準化活動へ橋渡しする役割を担うべく活動を進めてまいります。



大災害急性期救命情報共用システム